

JFBBFの新型コロナウイルス感染拡大予防対策ガイドライン

一般社団法人 全日本フリースタイル BMX 連盟
理 事 長 出 口 智 嗣

一般社団法人 全日本フリースタイル BMX 連盟（以下、JFBBF）が主催・主管する大会の新型コロナウイルス感染拡大予防対策は、（公財）日本自転車競技連盟が示すガイドラインに沿って行われますが、種目特性・会場特性・開催地域への配慮等を踏まえた独自の感染拡大予防対策ガイドラインを下記の通り示します。

I. 基本方針

各種目とも有観客での開催とするが、会場特性に応じて密集が生まれないように入場制限や誘導・ゾーニングを行う。入場人数管理・事前登録の仕組みは種目ごとに検討し通知する。
感染状況に応じて、参加者・来場者等に PCR 検査・抗原検査等の陰性判定提示を求める場合がある。
感染状況によっては、開催概要を変更する場合がある。

II. 選手・保護者・大会関係者の注意事項

1. 大会直近 2 週間の検温と行動記録を行い、主催者から求められた場合は指定された方法により速やかに提出する。
2. 体調が優れない場合（発熱や風邪の症状などを含む）や、陽性者との濃厚接触者と判断された場合には大会会場へ来場しない。
3. 会場内では常にマスクを着用する。ただし選手は競技中に限りマスクを着用しなくてよい。
4. 食事の際は、黙食・個食を心がけ、向かい合って食べないこと、喋りながら長時間かけて食べないことに注意する。
5. 気温等により、熱中症の予防に努める。
厚生労働省「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_coronanettyuu.html
6. 新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）をダウンロードする。
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/cocoa_00138.html
7. 応援はソーシャルディスタンスを保って行う。飛沫が飛び散る大声での声援や、ハグ・肩くみなど他者と密着する行為は控える。ただし家族はソーシャルディスタンスの対象としない。
8. 大会前・大会中は、感染リスクの高い行動（感染予防対策のない宴会や、三密の発生するイベントへの参加等）を慎む。

III. 競技会について

1. 練習走行
 - (1) 選手は、他選手との会話を控え、適度に距離を保つ。
2. 出場待機
 - (1) 1グループの人数が1m以上の間隔をあけて待機できる場所（待機エリア）を確保し、選手は距離をとって待機する。
 - (2) 待機エリアに消毒液を設置し、集合した選手は手指を消毒する。
 - (3) ハグ、肩くみなど他者と密着する行為は控える。
3. 出走後
 - (1) 出番が終了したら、速やかに待機エリアから退出する。
 - (2) 待機エリアから退出するタイミングで、マスクを着用する。
4. 表彰式
 - (1) クラス別に実施するなど密集回避に努めたスケジューリングを行う。
 - (2) 待機する者や表彰式を観覧する者は必ずマスクを着用し、他者と1m程度の間隔をとって観覧すること。ただし表彰を受ける者は、登壇中はマスクを外しても良い。

IV. 救護

1. 発熱等の体調不良者が出た場合には、保健所への連絡、医療機関の受診及び自宅やホテルでの待機を求める。移動が必要な場合には、公共交通機械を使用しないなど手段に留意する。
2. 救護にあたる場合は特定のスタッフが対応し、スタッフは必ずマスクやフェイスシールドを着用する。

V. 主催者の入場者管理

1. 事前登録制の来場管理等により、来場者のメールアドレスを把握する。
2. 入口で検温（非接触体温計でスタッフが検温）を行う。37度以上の場合、体調不良がないかを口頭で確認、37.5度以上で入場不可とする。
3. 入場時のマスク着用を必須とする。
4. 消毒液を設置し、手指消毒を促す。
5. 入場者と退場者が密集しないよう導線を工夫する。

VI. 主催者の会場づくり

1. 誘導スタッフの配置や導線の工夫により、密集が生まれないよう工夫する。
2. 会場内（入口以外）に1箇所以上、消毒液を設置する。
3. 観覧スペースでは、椅子等の間隔を適切に設けるか、スペースに応じた入場制限を行う。
4. 水分補給や軽食、熱中症回避等により一時的にマスクを外すことは問題ないが、その間は他者と密接しない、大声を出さない等の配慮を求める。密集した状態での飲食は避けるよう促す。
5. 主催者の定める予防対策が遵守されない場合は、会場から退場させることができる。